

Sheetmetal

2011

4

April

ましん&そふと

金属加工の総合誌/板金・製缶・プレス・鉄鋼



特集

世界経済をリードする中国の板金事情

板金業界

「優秀板金製品技能フェア」、田名部製作所が厚生労働大臣賞

職業訓練法人アマダスクール(理事長:岡本満夫氏)は、「第23回優秀板金製品技能フェア」5部門の入賞作品を選定、3月5日にフォーラム246ホール(神奈川県伊勢原市)で表彰式を行った。

入賞作品の中で厚生労働大臣賞は「板金加工部の部」で金賞を受賞した株田名部製作所(福岡県)の「シューター」に決まった。同社は3年ぶり2度目の厚生労働大臣賞受賞となった。

5部門に207点が応募

今回は国内から139点、海外から68

点、計207点の応募があった。

選考は一般見学者の投票審査のほか、日本塑性加工学会会員、精密板金工業会、全国のシートメタル工業会役員と審査委員の投票で行われた。

その結果、「板金加工の部」では株田名部製作所(福岡県)の「シューター」が金賞と厚生労働大臣賞を、「機械的結合を主体とする組立品の部」では株ミフインテック(愛知県)の「袖、靴下等筒形状の刺繍用保持枠」が金賞と中央職業能力開発協会会長賞を、「溶接を主体とする組立品の部」では株齊藤工業(愛知県)の「チタンタンク」が金賞

と日刊工業新聞社賞を、それぞれ受賞した。

さらに、「造形を主眼とする組立品の部」では株品川アート・プロ(新潟県)の「誰」が金賞を受賞。「学生作品の部」では、東京都立工業高等学校マシクラフト科(東京都)の「3学年協同制作『風車』」と、三重県立津高等技術学校メタルクラフト科(三重県)の「ランプ」が金賞を受賞した。

ソフトとハードの連携がカギ

厚生労働大臣賞を受賞した田名部製作所の田名部秀世社長は、「今回で



「板金加工の部」の金賞と厚生労働大臣賞を受賞した株田名部製作所の「シューター」



表彰を受ける株田名部製作所の田名部秀世社長(左)と(右)アマダスクールの岡本満夫理事長



「機械的結合を主体とする組立品の部」の金賞と中央職業能力開発協会会長賞を受賞した株ミフインテックの「袖、靴下等筒形状の刺繍用保持枠」



「溶接を主体とする組立品の部」の金賞と日刊工業新聞社賞を受賞した株齊藤工業の「チタンタンク」

9回目の出品。今回の「シューター」は3次元CADをフル活用した。マシンの発達は著しいが、一番大きいのはブレーキの精度。R曲げが非常に簡単にできるようになった。ソフトとハードの組み合わせによって、今まで非常に時間がかかっていたものが、簡単にできるようになった」とコメント。

講評を行った審査委員会・副委員長飯田詢氏は、「矩形のパイプをひねったような複雑な形状でつないでいる。これは3次元の設計でないと、なかなかできない。部品の分割も含め、非常にうまくできている。見事な作品」と評した。

簡易金型による高精度加工

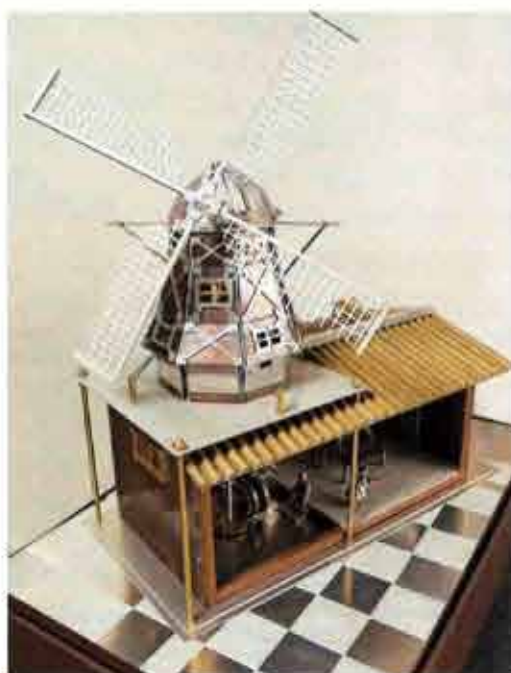
飯田氏は続けて、中央職業能力開発協会会長賞を受賞したミワインテックの「袖。靴下等筒形状の刺繍用保持枠」について、「一見すると、プレス加工製品に見えるが、簡易金型を活用している。この製品はロットが約400個で、普通の金型では(採算が)合わない。そこで、レーザー加工でつくった簡易金型を使って、主要なプレス加工や折り曲げを行っている。非常に精度が高く、仕上げもきれいにできている」と評した。

チタンの特性を活かした溶接

審査委員の安田克彦氏は、日刊工業新聞社賞を受賞した「チタンタンク」について、「オールチタン製で、TIG溶接によって組み立てられている。溶けたチタンは非常に粘っこい。その特性を活かして、ノンファイラー(なめづけ)溶接できれいな接合面ができるように工夫してある。また、チタンは高温で空気に触れると脆くなる性質があるが、シールドにも工夫し、チタン製品の溶接品としては最高品質の銀白色のきれいな溶接に仕上がっている」と評した。



「彫形を主眼とする組立品の部」で全賞を受賞した製品川アート・プロの「龍」



「学生作品の部」で全賞を受賞した東京都立工業高等学校の「3学年協同制作「風車」」



「学生作品の部」で全賞を受賞した三重県立津高等技術学校の「ランプ」

板金技能の今後の目標

また、総評を行った審査委員会・審査委員長の木内学氏は、これからの板金技能の目標・課題として、高張力鋼板の抜き・曲げ・成形技術の確立、硬脆材料等新板材料の加工技術の開拓、

成形・熱処理融合型創形創質板金加工の開発、3次元板金技術の開拓・応用・拡張、ロボットプレスの開発・拡張、固有技術の整備・知財化・ブラックボックス化——の6点を挙げた。